

研究室における RCM を用いた就職活動支援システムに関する研究

松田怜子[†] 南野謙一[†] 後藤裕介[†] 渡邊慶和[†]岩手県立大学ソフトウェア情報学部[†]

1. はじめに

近年、就職難が深刻化しており、依然として厳しい状態が続いている。研究室の3年生を対象に行ったアンケート調査によると、エントリー、履歴書、面接など偏りが無く就職活動に対する漠然とした不安が見られ、何から手を付けて良いか分からない、未体験のことに不安を感じている、といった回答が得られた。よって、不安を軽減し効果的な活動を促すためには、不安を感じているリスクを明確にし、リスクを軽減させるための対処法を理解させる必要がある。

そこで本研究では、RCM(Risk Control Matrix)を用い、先輩の経験談からリスクと対処法を蓄積し、リスク管理を行うことで自身の活動と比較・確認をさせ、随時不安を軽減していく事を目的とした就職活動支援システムを提案する。

2. RCM を用いたリスク管理

2.1 企業における RCM

RCM とは業務に潜むリスクの内容を整理し、そのリスクを回避するための内部統制方法を、マトリクス形式を用いて整理するものである¹⁾。企業は目標の達成を阻害する要因をリスクとして分析・評価し、その結果に見合った対応をとる必要がある。RCM は現状の事業を正しく評価し、リスクを回避するために十分なコントロールを実現することが目的である。

一般的には、財務報告に係わる内部統制に用いられ、虚偽記載が発生するリスクを識別するために用いられる。旅費精算業務を例にすると、「出張していないのに旅費を支払ってしまうかもしれない」というリスクに対し、「精算内容と切符・搭乗券の現物を必ず照合する」というコントロールが挙げられる。

2.2 就職活動のための RCM

本研究では、就職活動で抱えている不安や自身の問題点を理解させることが最重要であると捉える。RCM を用いリスク管理を行うことで不安を緩和し、先輩の経験談を聞くことで事前に発生し得るリスクに備えることがねらいである。

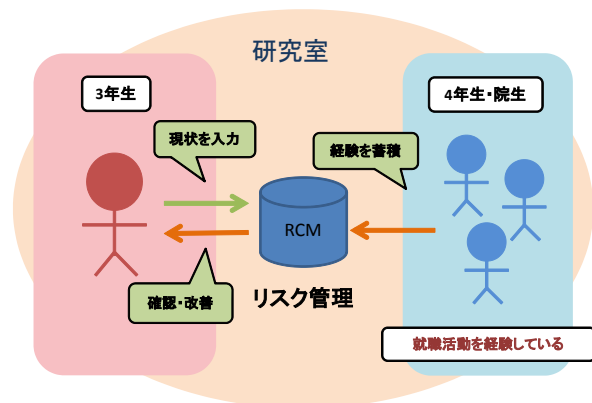


図1 就職活動のための RCM

RCM 作成のため、就職活動の各工程の中で発生するリスクをインタビュー調査し、リスクの評価を行う。その方法として、リスクの实在度・頻度・重要度それぞれを5段階で設定し、それを基にタイプ分けを行い、リスクの影響度を分類分けする。この結果を用い、図1のようにRCMを用いたリスクコントロールを行う。先輩が就職活動を通して経験した内容をRCMに反映し、3年生が適時活動に応じ改善を図るといった流れである。また、対象範囲を研究室内にすることで、普段から交流のある間柄での情報共有が可能となり、信頼性の高い情報を得ることができる。

3. 就職活動支援システム

3.1 システム開発

本システムは、Google社が提供しているクラウドサービスであるGoogle Driveを利用し開発を行った。Google Driveは、インターネット上で文書ファイルの作成や編集を行うことができ、特定のメンバーとのデータ共有が可能である。本システムは研究室内の情報交換を目的としているため、このサービスを用いる。

3.2 システムの機能

(1) リスク管理機能

表1のようなRCMを用い、自身の活動と比較する。同じリスクを犯していないかチェックし、その場合は改善策を考察することで問題への対応を促す。フローチャートで示した活動工程の適時に行うことで効果的な活動を促す。

(2) 志望企業添削機能

(1)の機能に加え、3年生と4年生・院生が一

Job-Hunting Supporting System Using RCM in University Laboratory

[†] Reiko MATSUDA, Ken'ichi MINAMINO, Yusuke GOTO and Yoshikazu WATANABE

[†] Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

活動	タイプ	チェック項目	チェック ○/×	リスク内容	原因	アサーション		
						実在度	頻度	重要度
筆記試験対策	1	筆記試験対策の開始時期は適切か?		開始が遅かった	合説に行ってからまずいと気付いた、他の作業との両立が大変、本2冊の半分ずつでは足りなかった	3	3	5
筆記試験対策	1	模試を受けたか?		模試を受ければ良かった	経験していれば本番の役に立ったと後悔	1	5	4
筆記試験対策	2	継続して筆記試験対策を行っているか?		勉強した内容を忘れる	勉強期間に疲があった	1	3	5
筆記試験対策	1	模試に挑戦する等し、実力を把握できているか?		どの程度勉強すべきか不明	実力が分からない	2	5	4

表1 RCM(一部)

(1)の機能に加え、3年生と4年生・院生が一对一の関係でアドバイスを貰うことが可能である機能を用いる。3年生は志望業界や企業、企業選びの条件などを図2のようなシートに記入し、先輩が添削を行う機能である。添削の担当者は志望業界などを考慮した上で決定する。それにより、同業界の選考を経験した先輩のアドバイスをもらうことが可能である。

(3) ES 添削機能

企業に提出するエントリーシートの項目を想定した図3のようなシートを作成し、3年生に記入させる。(1)のRCMの対応状況と照らし合わせ、4年生・大学院生は添削を行う。割り当ては(2)に同じである。学生間は普段から研究室での交流があるため先輩から見た後輩の強みを引き出すことができ、実際にエントリーシートを書く際の参考にできる。

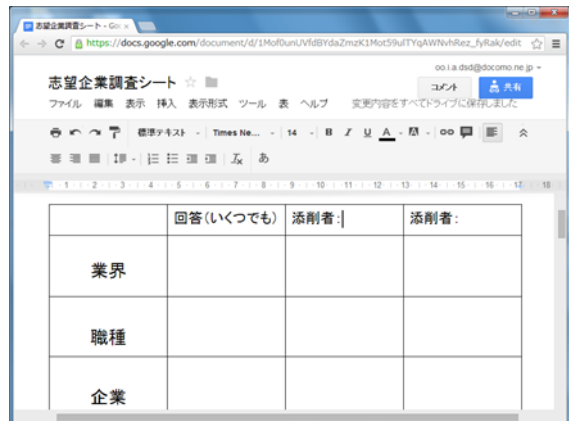


図2 志望企業調査シート(画面例)

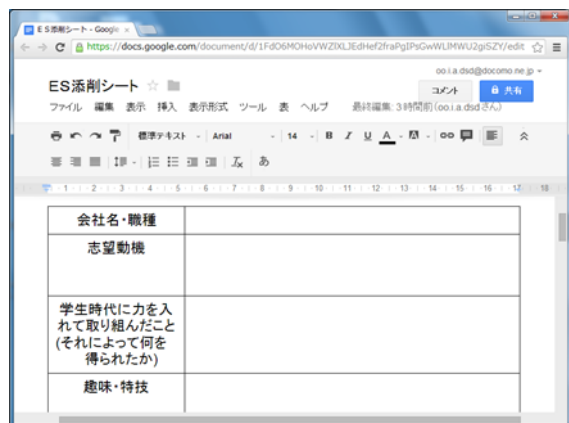


図3 ES添削シート(画面例)

4. 評価実験

4.1 実験方法

本研究の学生を対象とし、2012年12月から、大学院生1名、学部4年生6名、3年生9名に利用させた。大学院生と4年生は添削担当を行い、3年生はシステムを利用し就職活動を行う。評価実験の目的は、本システムを使うことで就職活動における不安を軽減しリスクに備え対処することで、効果的な活動を促進することにある。評価方法はアンケートとインタビューを用いる。

4.2 実験結果

本システムを利用し先輩のリスクを理解することで、活動を見直し改善しようという姿勢が見られている。改善策として、「希望地域の以外も考慮する」、「同業界で比較できるようエントリーを増やす」、「先輩に話を聞きに行く」など、視野が広がり、前向きな姿勢が見られている。また、志望企業を挙げたことで企業研究に対する意欲の向上も見られる。

5. まとめ

本研究では、就職活動を行う研究室内の3年生を対象にRCMを用いた就職活動支援システムを提

案した。システムを利用することにより、就職活動への不安や問題点を理解させ、適時改善策を考察させることができた。今後の課題として、リスク管理の内容をより明確にするため、実際に採用活動を行っている企業の人に評価を行ってもらう方法を提案する。

参考文献

- 1) Q-BPM RCM, <http://ja.q-bpm.org/mediawiki/index.php/RCM> (2013/1/10)
- 2) ITpro リスク・コントロール・マトリクス <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20060905/247157/> (2013/1/11)